岡崎市議会議長　様

支出番号	5

会派名　　民政クラブ
代表者名　　三宅　健司　㊞

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

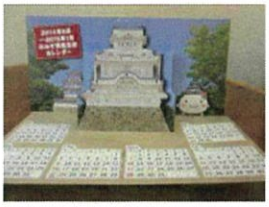
政務活動旅行報告書

平成３０年　４月１０日提出

活動年月日	平成２９年１０月２４日（火）～平成２９年１０月２７日（金）	
氏名	加藤　学、柴田敏光、井町圭孝、加藤嘉哉	
用務先及び内容	1 １０月２４日	用務先　兵庫県姫路市
		内　容　「おみぞ筋商店街」について
	2 １０月２５日	用務先　兵庫県明石市
		内　容　「明石のトリプルスリー」について
	3 １０月２６日	用務先　鹿児島県鹿児島市
		内　容　「中核市サミット　第１、第２、第３分科会」について
	4 １０月２７日	用務先　広島県三原市
		内　容　「城跡整備による史跡活用及び観光客の誘致」について
備　考		

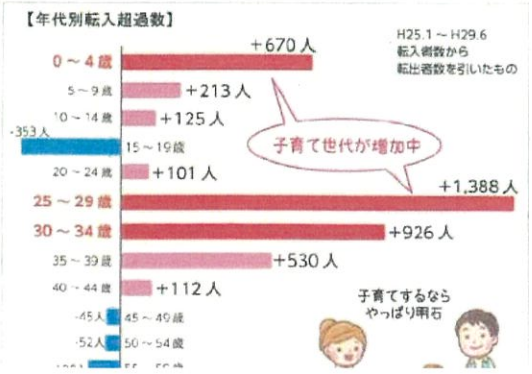
岡崎市議会事務局 受付 30.4.10

● 政務活動視察報告書(№398)

委員会・会派名	民政クラブ(加藤学・柴田敏光・井町圭孝・加藤嘉哉)　　報告者:柴田敏光
視察日時	平成29年10月24日(火)14時00分から15時30分
視察先・概要	兵庫県姫路市 人口535，664人、面積534．47㎡
視察内容	「おみぞ筋商店街」について
選定理由(目的)	商店街の賑わい
岡崎市の現状と課題	岡崎市の康生町は以前、大変賑わいのある商店街であったが、最近では人の流れがなく賑わいをなくしている。賑わいを取り戻す為に何が必要で、何から手を打っていけばよいのかを考える必要がある。本市も協議会としてしっかりと考えているが、新たな考え方があれば参考になるのではないかと視察先とした。
視察概要及び評価 蓑畑久恵様 パンフレット 	**おみぞ筋トリックアートストリート事業について** 全ての事実には2つの見方がある⇒現実から生まれる逆転の発想　　**明⇔暗** **おみぞ筋商店街の特徴** 1．道幅(約4m)が狭い2．小店舗が多い(各店舗の間口、奥行きが狭い)3．個人事業主が多い(イベント開催時の動員が困難)4．通学、通勤路なので歩行者が多い(朝と夕方は歩行者が多い) **なぜ『トリックアートなのか？』** ・　インターネットが日常化している若年層を取込、SNS 等での情報交換 ・　各店舗に迷惑をかけずに取組める ・　年代問わず体験と発見による体感型である 現状を直視することで対策がとれる **目的**　①来街促進と回遊性向上による滞在時間の延長 ②マスメディア(新聞・TV 等)や SNS(口コミ)により、商店街を宣伝し来街を促す **トリックアートストリートの特徴** 飽きさせない仕掛け ①　移設することが容易で、変わる楽しみがあり、再来・再来来が見込める ②　連携する商店街・地域・施設・イベントに貸出しできる ③　来街者が広告塔となって発信できる事業 今後の課題 ①　近畿地区の他の地域と連携し、お互いの持っている資産を利用した情報発信 ②　限られた予算を最大限活用した情報発信 ③　目立たせ、人を集める事業と地域に親しまれる継続事業の使い分け ④　メーカーとのコラボ **おみぞ筋商店街の考え方** 道幅が狭いが、使いやすいところを使い・使いにくいところは目をつむる 雨に濡れずに、傘をささずに回遊できる街づくり(アーケードの整備⇒延長400mで4億円程) トリックアートを移動する⇒若者が SNS で誰よりも先に情報発信をしたいと行っている 商店街の管理は、NPO 法人に委託(経理・安い給料であるので、違った収入を得られるようにしている) **イベント開催　脱出ゲーム** ・　パンフレットをしっかりと読まないと回答ができない仕組み ・　景品に99円のティッシュを金棒に見立てたものを用意⇒**3日間で3，000人以上が来街** ・　時期におみぞ筋商店街に行かなくてはという意識付けをする(年末の締縄作り・クリスマスなど) ※　**空き店舗入店の補助金** **・1年目上限7万円・2年目上限5万円　家賃の50%**
本市への反映 (意見・課題など)	【柴田敏光】 本市も今後商店街を含めた街の整備を行っていくのであれば、目を引く発想また商店街との連携が大変重要となってくる。トリックアートを回遊する流れの中で取り入れることも考えていくべきである。また助成金も姫路市は、城下町ということで白壁での補修・建築等に対して助成を行っている。本市も岡崎城周辺に対しての街づくりとして考えていくべきである。 街を回遊していただくためのパンフレットも、どうしたらしっかりと目を通してもらえるのか工夫することも必要である。いくら内容の優れたパンフレットも見て読んでいただけなければ価値がない。 【加藤学】 小溝筋商店街活性化事業の一つである「おみぞ筋トリックアートストリート事業」は、当商店街の特長(欠点)を逆転の発想により取り組まれた事業であり、その熱意と行動力は素晴らしいものであ

	る。また、活性化事業の展開においては行政や商工会議所など関係機関との連携が重要であるとあらためて感じさせられ、日頃からの関係づくりは大いに参考となるものである。 【加藤嘉哉】 シャッター街になっていた小溝筋商店街を、トリックアートを取り入れることで活性化させたという事業であるが、商店街の建物を活かしシャッターや壁にトリックアートを描くことで商店街を人が回遊し活気を取り戻すという発想と実行力に感心させられた。また地元の商店街の組織力・行政・商工会議所との連携により商店街から姫路市の発展へと繋がっており、本市においても非常に参考になる事業である。 【井町圭孝】 定期事業②短期集客事業③長期継続事業 を戦略的に組み合わせて実施し、来街客を増やすことに成功している。トリックアートもそのアイテムの一つだが、不定期に絵を変えたり、貼り付ける場所を変えて飽きさせない工夫もしている。 籠田公園からりぶら or 岡崎公園への人の誘導を作るのに、イベント＋トリックアートの展示も有効な手段であると考える。

● 政務活動視察調査報告書（№.３９９）

委員会・会派名	民政クラブ：加藤学、柴田敏光、加藤嘉哉、井町圭孝　　報告者：井町圭孝
視察日時	平成 29 年１０月２５日（水）
視察先・概要	兵庫県明石政策局政策室、福祉局子育て支援室 ・人　口　293,409 人　・世帯数　130,779 世帯 ・面　積　49,42km²　・人口密度　5,971.50 人／km²
視察内容	明石のトリプルスリーについて（赤ちゃん 3000 人、人口 30 万人について）
選定理由（目的）	近隣市町同様人口を減少させていた明石市が平成 25 年に人口増加に転じ、平成 31 年までに人口 30 万人、赤ちゃん出生数 3,000 人にするという明確な目標を打ち出している。学ぶべきことが沢山あると思い選定した。
岡崎市の現状と課題	本市においても、人口は平成 42 年まで増加する見通しであるが、高齢者の割合が増え続けているのが現状であり、子どもを含めた若者を増やすことが必要と考える。
視察概要及び評価	**1　トリプルスリーの特徴** 最大の特徴は子育て世代に照準を絞り、「子育てするなら明石」という宣伝を広く行い、近隣市町から移り住む人を増やしていること。 西三河では普通になっているが、子どもの医療費を中学３年生まで無料にすることや、保育料を２人目から無料にする、また、あかしこども広場を明石駅前のビル内に作り、市民は無料（市外の利用者は有料）で利用できるなど、戦略的に明確なビジョンを描いて政策を進めている。 また、全ての子どもたちに対して、誰一人として見捨てないという体制でまちのみんなで支援する仕組みづくりにも力を入れている。 **2　具体的な施策** （1）中学３年生まで子どもの医療費無料 （2）保育料を２人目から無料 （3）保育所受け入れ枠２年で 2,000 人拡大 （4）小学１年生は 30 人学級 （5）小中学校へのエアコン設置　など **3　政策実施の効果** 戦略通り平成 25 年から子育て層の転入超過が多い結果となっている。 それに伴い、子どもの人数も増加し、出生数も増加している。 15～19 歳の転出が超過しているが、進学及び就職による転出者が多いことを意味しているが、この世代の転出超過対策を考える事はなく、子育て世代の住みやすい都市として今後も戦略的に政策を打ち出していく。 基本的に、市民サービスに巨額の税金を投入しても、人が多く移り住んでくれれば回収できると考えて政策を進めている。 

4　その他の明石市の魅力

（1）交通の便が良い

大阪駅まで 37 分、三ノ宮駅まで 15 分、姫路駅まで 24 分と東西の大きな都市へのアクセスは良いし、家賃相場も比較的安く恵まれた立地。

（2）気候が良い・災害が少ない

日照時間は関西一、降水量の少なさ関西一、加えて兵庫県沿岸部の市の中で、気象警報発令回数が最も少ない。

（3）子どもの遊び場多い

身近な公園が県内で 2 番目に多い。加えて、雨天時でも遊べる駅前ビル内に開設した親子交流スペース「ハレハレ」や天文科学館なども子供は無料など遊び場が充実している。

（4）病院施設も充実

面積当たりの病院数が県内第 2 位であり、市民の安心が身近に多くそろっている。

5 課題

子どもが増えたことによる待機児童の増加、小学校の受け皿の問題などが発生しているが、毎年改善を図っている。また、待機児童については公表するにあたり包み隠さず正直な値を公表している。

6 Q&A（一部）

（1）Q　保育士の確保は？

A　待機児童は関西ワースト。毎年受け皿を 1000 人拡大。
保育士確保現金 30 万円支給＋給料 up で保育士は足りているが箱が足りていない状態。

（2）Q　小中学校の受け皿は？

A　一部パンク状態。教室が足りない状態で学区の再編やプレハブで対応しているが、小学校 1 年生の 30 人学級は継続する。

←

説明いただいた明石市

政策局政策室　岡田担当課長

子育て支援室　永富室長

本市への反映 （意見・課題など）	・近隣市が実施していない思い切った政策を実施することで、目的の層の人口を増やすことに成功している。また、近隣市がサービス面で追いついてきても更に先を行くサービスを行う考えであることも確認。 出生数を増やすためにも優れた政策であると感じた。**（井町）** ・明石市の地域創生総合戦略（トリプルスリー）は、目指すべきまち「家族で暮らしたいまち」の目標の明確化と共有化がしっかりと図られている。人口・出生数とも着実に増えていることもさながら、平成 29 年１月に実施された「明石のたからもの」アンケート結果では、「子育てしやすいまち」が第５位にランクイン（ソフトサービスとしては第１位）されるなど市民もそれを確実に実感していることが素晴らしい。目標の明確化と共有化に対する具体的な取り組みは参考すべきものである。**（加藤学）** ・明石市の地域創生総合戦略（トリプルスリー）は、若い世代を明石市に転入していただく施策である。事業内容は、子育てに関して手厚い内容となっている。医療・学業等また子ども遊び場施設のそれぞれ無料化を実現している。子どもに対して 20 億円の歳出があるが、固定資産税・所得税等で 21 億円の歳入があるということで、明石市としてはプラスの運営となっている。また、30 万都市を目指しているということで、人口増となることで商業施設、建築関係も潤って税収が上がってくる。図書の 300 万冊貸し出しは、学力向上も含め進められている。職員も一人二役はこなす体制をとっている。弁護士資格を持った職員を採用して、弁護士と所管の仕事をこなすことも行われている。本市も取入れる内容は検討するべきである。**（柴田）** ・明石市の取り組みである地域創生総合戦略（トリプルスリー）に関して、泉市長から直接ご説明を頂き、子育て世代を中心に神戸市・大阪市等の大都市から明石市に引越しをしてくる世帯が年々増加しているとのこと。子育てしやすい町としての様々な施策が目にみえる効果を出してきている。目標を数値で表し、ビジョンを明確にする取り組み方は非常に参考になる。本市においても子育て世代が住みたいと思えるまちになるような施策を検討していく必要があると考えられる。**（加藤嘉）**

● 政務活動視察調査報告書（№.400）

委員会・会派名	民政クラブ：加藤学、柴田敏光、加藤嘉哉、井町圭孝　　報告者：井町圭孝
視察日時	平成29年10月26日（木）
視察先・概要	鹿児島県鹿児島市 ・人　口　　597,375人、面積547.55k㎡
視察内容	中核市サミット・第1分科会　「スポーツを核としたまちづくり」について
選定理由（目的）	スポーツと言っても見る・する・支えるという3つのキーワードがある。 3つの観点でのまちづくりに興味があり選定した。
岡崎市の現状と課題	中央総合公園を中心に、競技をする人、スポーツ観戦する人、また大会運営には欠かせないボランティア（支える）の人は多いと思う。他市の先進事例を参考に更に良くすることは可能であると考える。
視察概要及び評価	**1　基調講演『個性ある中核市こそが次代の日本を担う』** 日本総合研究所主席研究員　藻谷浩介氏 ・中核市の改革が日本の改革につながる。（政令市は大きすぎで小回りきかない、中核市にはそれなりの権利が行使できる） ・世間には誤った情報が多く、誤った情報を認識している人が多い。例えば東京は若者が集まるまちで、若い人が増えていると多くの人が思っているが、実際は増えているのは高齢者。人口増=高齢者増 ・また、空き家についても圧倒的に東京が多く、空き家が多いため、家賃も上げられず、デフレ脱却できない最大の原因と言っていい。 ・少子化問題が最大の問題で、早急に解決していく必要がある。 例えば子育て世代の支援の拡大、そして、各地域でお金を循環する仕組み（地域外に出ていくお金を減らす）を作っていく事で、地元に雇用を増やすことが出来、地元も潤う。 **2　第1分会　スポーツを核としたまちづくり** コーディネーター：日本政策投資銀行地域企画部　参事役　桂田隆行氏 国においては、スポーツを通じた社会の発展や東京オリンピック・パラリンピック等の開催を背景として「スポーツ庁」が設置され、スポーツ産業をわが国の基幹産業にするための取組みが進められている。また、本格的な人口減少局面を迎える中、近年、スポーツ観戦やスポーツイベントへの参加など、スポーツツーリズムへの関心が高まっており、交流人口の拡大等による地域活性化がますます重要となっている。 このような動きを踏まえ、スポーツイベントの開催やキャンプ誘致などのソフト、施設整備などのハードを地域資源として活用し、スポーツを核としたまちづくりによる地域活性化を行うための方策等について、検討を行う。 （1）　スポーツ関連施策事例（ソフト面） ・海外のオリンピックやラグビーチームの誘致活動。 ・地元プロチームや実業団チームと連携した活動 ・ジュニアアスリートを対象にした指導教室 ・市民スポーツ教室の開催　　等 （2）スポーツ関連施策事例（ハード面） ・地元のスポーツチームのプロ化等への条件を満たす競技場、アリーナ等の

	整備・改修 ・スポーツ合宿拠点施設の整備 ・運動公園等の再整備 ・スポーツ資料展示室　　等 （3）スポーツ関連施策事例（取組の課題） ・一過性のものにせず継続的な取り組みが必要。（ソフト） ・一般市民に認識、愛着を持ってもらえるよう支援が必要（ソフト） ・スポーツイベント開催による地域への波及効果を高めるためには民間を中心とした多様な関係者との連携が重要。（ソフト） ・スポーツイベント等に、観光資源や歴史・文化・産業・農業の地域資源を組み合わせたニューツーリズムの取組みが必要。（ソフト） ・健康づくり事業との連携強化が必要（ソフト） ・施設があり、観戦客を受け入れることはできても、宿泊・観光関係者等との連携が不十分。（ソフト） ・世界大会・全国大会規模等の基準に合わせた施設にするには市民からの幅広い理解が必要。（ハード） ・スポーツ施設の老朽化やニーズの多様化等に対応するとともに、市内スポーツ施設の適正配置や機能向上を図る必要がある。（ハード）　　等 （4）スポーツを核としたまちづくり ・合宿誘致などトップレベルのアスリートと多様な世代がスポーツにふれあうことで、市民がスポーツに親しむことを推進していく。 ・スポーツを通じた国際交流や地域経済の活性化も図っていく。 また、ジュニア層の競技力向上にもつなげていきたい。 ・スポーツを通じた地域交流、地域コミュニティの醸成に貢献。　　等 **3　まとめ（サミット宣言）** 中核市は、交流人口の拡大等による地域活性化を図るため、「する・みる・支える」といったスポーツシーンに対する市民の関心を高めるとともに、官民が連携し、魅力あるスポーツイベントの開催や施設整備に取り組むことにより、都市の個性を生かしたスポーツによるまちづくりを推進する。
本市への反映 （意見・課題など）	スポーツを通じて、コミュニティの醸成、健康づくり、地域経済の活性化を図る事が出来る。 官民が連携する事が必須であるが、本市にも規模や立地が良い中央総合公園があるので、経済の活性化につなげる取り組みを提言していきたい

● 政務活動視察報告書（№401）

委員会・会派名	民政クラブ（加藤学・柴田敏光・井町圭孝・加藤嘉哉）　　報告者：柴田敏光
視察日時	平成29年10月25日（水）9時00分から10時30分
視察先・概要	鹿児島県鹿児島市 人口597，375人、面積547．55㎡
視察内容	中核市サミット・第2分科会 「若者が活躍できる地域づくり」について
選定理由（目的）	岡崎市の若者が活躍できるにはどう進めるべきなのか
岡崎市の現状と課題	岡崎市の若者が進学、就職で東京圏に流失している。特に就職は地元に戻り活躍をしていただくための施策を考えていかなくてはならない。
視察概要及び評価	**【盛岡市】**市外に就職・進学する見込みと回答した人の割合は、約3割程度である。その内2割程度は将来的にはUターンを希望している。Uターンを希望する場合の課題としては、『仕事の確保』と回答した人が7割と突出して多くなっている。 ➡Uターンをしやすくするために必要な支援は、『仕事』『情報・相談』『住宅』となっている。 **【豊中市】子ども園での高校生と乳児家庭とのふれあいの取組** 市内の高校生が乳児・保護者との交流会で手遊びや絵本の読み聞かせなどを通じて乳幼児に接するもので、命の大切さや乳幼児との心のふれあいを実感し、子どもと接する際の心得などを実践の中で学び、親としての責任と自信を育むことをねらいとしている。 今後活躍を期待する分野 ＝子ども食堂・学習支援などへのボランティア活動について若者世代の活躍を期待する。 **【高槻市】民生委員・児童委員インターンシップ** 府内16自治体及び関西の10大学（参加学生数54名）の参画を得て、大学生が民生委員・児童委員活動の現場を体験するインターンシップを実施している。高槻市では4人の大学生が、ひとり暮らし高齢者の見守り訪問への同行、サロン活動の手伝いなどの活動を体験し、民生委員・児童委員活動への理解を深めるとともに、地域での支え合い・助け合いについて学ぶ取り組みを行っている。 今後も、高齢化が進行する中、このような福祉の分野についても若手が担い手となることが期待される。 **【枚方市】**枚方市には45の小学校区があり、その校区すべてにコミュニティ協議会がある。その校区コミュニティ協議会の一つと、市内大学の学生とが協働し、『ひと・まち・であうプロジェクト』という取り組みを通じて、地域活性化に貢献している。これは高齢化や子育て、防犯など地域が抱える課題に対して、大学生のアイデアやエネルギーが解決を図る有効な手段になったとして、メディアなどで大変注目を集めたものである。 **【姫路市】**平成28年度から実施している主に大学生を対象としたタウンミーティング『ひめじ創生カフェ』には定員100人を超える申し込みがあった。今年度から高校生も参加し、市長と意見交換を行った。その提言内容の一部は市政に反映させている。 **【福山市】**福山市バラの日を条例化したのは、子ども議会で提案され実現した。 **福山の歴史・文化等啓発事業➡**郷土の歴史上重要な人物などにまつわる漫画を通して福山の歴史に触れる。市内の公立小学校5，6年生全学級、公立中学校1～3年生等に配布。また、図書館貸出や書店等で販売も行っている。 **ふるさとへの愛着と誇りの育成➡**義務教育9年間の教育活動の中で、福山の歴史や資源、それに関わる人々の営みについて、副読本『大好き！福山～ふるさと学習～』を活用したり、地域に出かける等して学習するもの。 **【長崎市】**<事例紹介> **・商店街との連携➡**新大工町商店街に若者を呼び込んで活性化を図ろうと、長崎大学経済学部が様々な連携事業を展開。 **・斜面地・空き家の活用➡**長崎港、稲佐山を一望できる浪の平地区で、大学生4人が集まり、斜面地と空き家を活用する団体『つくる』として活動。 **【佐世保市】**イベント会社に企画を任せるのもいいが、大学生に任せることを行っている。動画を発信するための制作を30秒から60秒でまとめた。ただし指導者は必要である。（著名なプロデューサーに依頼） 進め方は、大学生に任せポイントを指導また制作されたものに対してアドバイスをする。

藻谷浩介氏

第2分科会

志賀玲子氏

 	【宮崎市】みらい・ときめきワークライフ推進事業 若者の地元定着や都市部からの人材還流を促進するため、スマートフォンアプリをプラットホームに宮崎の魅力あるワーク・ライフを効果的に発信するとともに、各種プロモーションイベントを開催し、若者の意識啓発と移住の動機付けを図る。 **主な事業内容** ・20do 成人式連携イベント開催・20do 大都市圏イベント開催・20do 体験型進学就職イベント開催 ・20do アプリの運用管理、及びプロモーションブック等の作成 **成功要因** 成人式との連携（新成人登録、写真配信等の機能搭載）で見込み以上の若者がアプリをインストール **予想外の効果** ・地域分散型成人式の特徴でもあるが、新成人の保護者も成人式に関心が高く、保護者世代もアプリのインストールを行っている。 ・アプリを活用し、学生の広報のサポートを行い、関係性を築くことで、学生は**20do** 関連情報の拡散を行ってくれる。 **※　20do は『二十歳の行動』、お酒の飲める成人ということで『20度の焼酎』をかけている。**
本市への反映 （意見・課題など）	『若者が活躍できる地域づくり』をテーマとして行われた分科会である。本市も多くのイベント企画などを行っているが、企画会社に依頼して開催されている。中核市の各市では、多くの大学生などに若者の視線での企画、新しい発想で魅力のある企画が行われている。本市の魅力を十分に活かした提案を固定観念なしに企画されるので市民を引き付けている。若者の定着、また魅力を感じて移住してくる若者というように若い力を活かしていくように責任もって行ってもらうよう任せてもよいのではないかと考える。 また、高槻市のようにインターンシップを民生委員・児童委員活動の現場を体験するインターンシップを実施することも、本市として取り入れていくことを考えるべきではないか。 空き家対策も、空き家の再利用等を含めて若者にテーマとして出し提言を受けることも一つの手ではないかと考える。 宮崎市のように、成人式の案内等をスマートフォン利用で情報発信をすることも予算の削減にもつながり本市にも取り入れるとよいと考える。（紙の節約、郵便代の節約） 案内、情報発信は、年代で発信の仕方を考えるべきであると考える。

● 政務活動視察調査報告書（№402）

委員会・会派名	民政クラブ：加藤学、柴田敏光、井町圭孝、加藤嘉哉、　　報告者：加藤嘉哉
視察日時	平成29年10月26日（木）
視察先・概要	鹿児島県鹿児島市 ・人　口　　597,375人、面積547.55k㎡
視察内容	中核市サミット・第3分科会　「地域の特色を生かした新たな産業づくり」について
選定理由（目的）	地域ごとに様々な特色がある中で、その特色をいかに上手に活かし、新たな需要の創出・獲得により地域活性化に繋がるかを参考にしたい。
岡崎市の現状と課題	岡崎市の産業のブランド化を目指す中で、地域の特性を十分に活かし雇用の創出を図る施策について更なる検討が必要である。
視察概要及び評価	**第3分科会　地域の特色を生かした新たな産業づくり** コーディネーター：鹿児島大学　産学官連携推進センター 産学官連携部門　准教授　　中武　貞文　氏 全国的には雇用や所得の改善が見られる一方で、地域によっては厳しい経済状況も見られる。「人口減少が地域経済の縮小を呼び、さらに人口減少を加速させる」負のスパイラルにより、地方の弱体化が日本全体の競争力の低下に波及することのないよう、地方創生の一層の取組みが求められる。 この取組みを進めるにあたっては、郷土で活躍し、輝きたいと願う人々のニーズに応え、活力と働きがいを生み出していくことが重要であり、大学等との産学官連携や異業種連携などを通じた新産業の創出を積極的に推進することは、地域経済の活性化や雇用の拡大に大きな役割を果たすことが期待される。そこで、地方にしごとをつくり、安心して働けるようにするため、それぞれの地域が持つ魅力や資源を生かした新産業を創出するための方策等について、検討を行う。 **＜郡山市＞** ・再生可能エネルギー、医療機器分野、創業者支援、インバウンドの推進、農林水産業の振興に力を入れている。人口減少が進む中、将来課題を見据えて現在の対応を考えるバックキャストの思考で市政運営を行っている。 **＜横須賀市＞** ・ICT関連事業者、小規模事業者の集積に取り組んでいる。ICT産業を担う人材の育成の取組み、ICT拠点としての認知活動、民間主導の事業支援を行っている。 **＜富山市＞** ・エゴマの6次産業化に力を入れている。エゴマのグローバルブランド化を見据えた認証制度の創設、働き手不足に対する取組みを行っている。 **＜岐阜市＞** ・新たな雇用の創出、地域産業の振興、高等教育機関の活用等による「産業・雇用立市」の実現に取り組んでいる。産学官の連携による新たなビジネスモデルの創出、魅力ある企業の事業承認等、様々な施策に力を入れている。 **＜岡崎市＞**

	・観光産業都市・岡崎を目指し、公民連携による「観光産業都市」としてのまちづくりを進めている。観光客の増加によるシティホテルの誘致、市内での滞在時間の延伸を図る等の課題に取り組んでいる。 **＜尼崎市＞** ・分野や規模を問わず事業経営において最も重要な資源である「ひとづくり」に着目した産業振興に力を入れている。学生と市内企業をつなげる事業を限られた予算の中で、継続・拡大といった課題にも取り組んでいる。 **＜奈良市＞** ・世界遺産を有する国際文化観光都市であり、観光業の振興が地域全体の経済活性化に寄与するという考えから、観光分野とそれを支える創業支援をテーマとして取り組みを実施している。奈良という固定されたイメージ以外に観光資源、新たな魅力の発見に向けたアイデアの創出を課題として取組みを進めている。 **＜倉敷市＞** ・繊維産業の国内生産量の減少に伴い、事業所数・従業員数の減少傾向にあるものの、国産ジーンズの生産・ブランド化によりジーンズによる観光分野・まちづくり分野へと繊維製品出荷額は増加傾向にある。原材料から製品に至るまでを産地内で完結できる強みを維持できるように取り組んでいる。 **＜高知市＞** ・農産物の６次産業化。３大プロジェクト、「社学一体・小中一環教育プロジェクト」、「交流・定住人口拡大プロジェクト」、「まるごと有機プロジェクト」を３つの柱とし、６次産業化を「まるごと有機プロジェクト」の１つとして実施。今後の更なる販路拡大が課題になっている。 **＜大分市＞** ・「第２次大分市商工業振興計画」における医療関連産業・ロボット関連産業自動車関連産業・ＩＴ関連産業・航空機関連産業・等を成長産業と位置づけ各産業の育成・振興を図るとともに新たな企業立地や創業の促進を図っている。航空機・医療関連産業は、技術水準や品質認証などの面で参入の壁が高く、中小企業の新規参入への支援が課題となっている。 **中核市サミット宣言** 中核市は、地域経済の活性化と雇用の拡大を図るため、成長性の高い分野における創業、新事業などの取組みを支援するとともに、大学や研究開発機関、地域内外の企業等との産学官連携の取組みを進めることにより、地域の特色を生かした新たな産業づくりを推進する。